



あの世でマルクスしたり顔

十二月二五日の日経新聞に「資本の集積が進み、投資で得られる利潤が低下、利子率を圧迫する（＝低金利となる）」と云うマルクスの予言通り、超低金利時代となった」という趣旨の記事が載った。

大企業は儲けが溜まり、財務省調査によると二〇一七年度に大企業の内部留保は四二五兆円まで膨らんでいる。

デフレ

一方、従業員の賃金は前年度に比べ五万四千円減。二〇一二年の一・〇三倍。消費税増税や物価上昇があるので実質減少。

要するに労働者の賃金を抑えて儲けが増え内部留保となった。尤もゴーンでは外部流出。賃金が下がると物が売れない。企業は設備投資もしない。するにしろ、

でも内部留保があるから、お金を借りない。金利が下がり、物価が下がるデフレになった。

対策としてアベは金融緩和、規制緩和をすすめるが大企業が儲けを溜め込むだけ。景気対策効果はない。

対策は簡単

この状況を見れば対策は直ぐ分かる。内部留保を減らし、労働者の賃金を上げるのだ。そうすれば労働者は物を買う、レジャーにお金を使う。景気も良くなる。すると設備投資も増える。内部留保減少だから、お金を借りて投資することになる。

それで、金利も上げる・・・簡単でしょ？

景気対策はマルクスに学べと日経も云っているのでは？

あなたはこう思われますか？

観音埼灯台

神奈川県横須賀市鴨居

二〇一八年十二月



これは年末年始台併号です

昔、船は灯台の灯りを頼りに航海していた。「おいら岬の灯台守は妻と二人で沖行く船の無事を祈り灯をかざす灯をかざす」という歌も作られた。こうした歌には心惹かれるし、灯台から眺める景色も素晴らしい。「灯台女子」も現れた。

ところがナビの出現で灯台の意味も変わってきた。小さなモーターボートにもナビが付いている。ナビには海図が表示され、海崖線も、暗礁も、航路も直ぐ分かる。もはや灯台は無用・・・

と思われれるかも知れない。しかし、ナビが故障したり、船が遭難したら、頼りは灯台だけ。海図を助け、灯台の方角を測って船の位置を見つけ出さなければならぬ。

まだまだ灯台は大切だ。